

社会自由研究部門

総評

今回、応募された作品は、夏休みという自由に使える時間を有効に生かした作品が多く、すばらしいと思いました。

特にどの作品も、その学年らしい問題を、自分の手足・目・耳を使って調べている所は感心しました。参考書を写すより、身近にある問題を自分の力で調べるほうが、大切です。

●入賞者一覧

○最優秀賞

「長良川と堤防」

岐阜県・岐阜市立長良小学校

4 年
田中 修史

○優秀賞

「おじいさんに聞いた話」

岐阜県・岐阜市立長良小学校

4 年
杉山 綾子

「はたらく人」

東京都・文京区立窪町小学校

2 年
荒川 武士

「大谷石の研究」

栃木県・宇都宮大学教育学部付属小学校

4 年
渡辺 麻起

○優良賞

紙芝居「人類の祖先」

東京都・品川区立浜川小学校

6 年
須藤 恵美

「ちらししらべ 50日かん」

佐賀県・神埼町立神埼小学校

4 年
志岐 敬子

「長良川の研究」

岐阜県・岐阜市立長良西小学校

5 年
後藤 千重

「ちょっとひとこと」(朝日新聞)の感想

東京都・日本女子大学付属豊明小学校

4 年
桜井 麻子

「三次風土記の丘と寺町廃寺跡をたずねて」

広島県・広島市立原小学校

6 年
瀬川 光恵

○佳作

「飛騨をたずねて」

東京都・千代田区立番町小学校

6 年
石川 才

「登呂遺跡」

なかに、旅行に行った時にいろいろな写真を撮って、パンフレットなどとともにきれいに貼って、その説明をしたものがありました。こういう作品は、みためは立派に見えますが、どうしても主題があいまいになってしまいます。「自然を生かしたくらしや生産の工夫」「私のまちとの比較」とか調べる主題をはっきりさせるとよいでしょう。

次のコンクールへの応募を期待します。

奈良県・奈良育英小学校

6 年

麻柄 由樹

「四国鈍行列車の旅」

愛知県・犬山市立南部中学校

2 年

熊木 天児

「国名のおこり」

東京都・文京区立窪町小学校

5 年

木村 健介

「魚市場(第二魚市場を中心にして)」

青森県・白菊学園小学校

5 年

吉田裕輝子、五戸真樹子

「風水害調べ」

青森県・八戸市立吹上小学校

5 年

馬場 真弓

「宇都宮の土地りよう」

栃木県・宇都宮大学教育学部付属小学校

3 年

柏村 清美

「栃木県と岡山県の違い」

栃木県・宇都宮大学教育学部付属小学校

2 年

諏訪 俊一

「お父さんの仕事」

福岡県・三国町立雄島小学校

3 年

森井美由紀

「水」

東京都・日本女子大学付属豊明小学校

4 年

宮上 早智

「中津川にかかる橋」

岩手県・盛岡市立城南小学校

2 年

竹島よう子

「神田川の流域を歩いて」

東京都・新宿区立市谷小学校

4 年

雨森 教子

○特別賞

「竪穴式住居の復原」

広島県・世羅町立世羅西中学校

1 年A・B

(代表) 伊藤 和彦

最優秀賞受賞作品

長良川と堤防

岐阜県・岐阜市立長良小学校

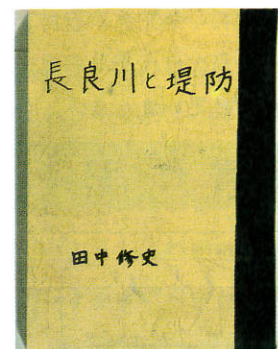
4 年 田中 修史

指導者 高木 満夫

●内容

1, 長良川とは

長良川の水源は、岐阜県郡上郡高鷲村の標高1790メートルの大日岳です。(中略)川の長さは、約166キロメートル、高山から名古屋までのきょりとほぼ同じ



▲最優秀賞の「長良川と堤防」

で、流域面積は2050平方キロメートルです。(略)流れは、最初2つに分かれていますが藍川橋付近で1つになっています。

2, 堤防

(1) 堤防 昭和26年3月に右岸ができました。また、左岸は昭和15年3月にできました。

(2) 昔の堤防 昔は、今のようないょうぶな堤防ではなく、ただ土をもっただけでした。そのため、大水が来ると、すぐ切れました。そういうときは、じゃかごやうしというものを使って、切れた堤防の修理をしました。(略)

(3) 最初の堤防の修理 昔の人が作った、土をもらいあげただけの堤防の上にねん土をつけ、さらにコンクリートでかためて、堤防をじょうぶにしたのです。

(4) 本格的な堤防の改修工事 引き堤工事、締切工事などをしました。

3, 水の増加

昭和34年の伊勢湾台風。昭和35年の台風12号。昭和36年の梅雨前線ごう雨の時は、1平方メートルで、1秒間に約8000トンもの水が増えたそうで

す。ふつうは、増えても1秒間に約4500トンです。

4, 水防

(1)排水機 (2)テトラポット (3)水防団、水防対さく室などができて、水害を防ぐ努力をしています。

5, 水害一写真集



▲自分の足でたくさんの箇所を調べています。

〈資料〉堤防の近くに住んでいる人たちに堤防の近くで良いこと、困ることについて聞きました。

●あとがき 岐阜市の場合、市役所の土地は、長良川よりも約1メートルも低いのです。このことから、堤防や排水機がいかに大切かを知ることができます。

評 この作品のいちばんすばらしいところは、調べたことをもとに、自分の考えを導きだしている点です。

次に良いところは、学校で勉強した内容をよく理解し、それをふまえて、自分の問題としてとらえているところです。内容は高度なところがありますが、出発点が学校の学習なので、4年生らしい作品にまっています。

社会科の自由研究を行ううえで、いちばん大切なことは、身近にある事がから、自分にあった問題をつかむことです。そのうえで、小さな問題でも、もう一度見つめ直してみたり、おじいさん、おばあさんの話を聞いてみるなどでいねいに調べていくことです。そうするといままで気がつかなかったことが見つかるはずです。この2つの意味で、田中君の研究はすばらしいものでした。

優秀賞受賞作品

おじいさんに聞いた話

岐阜県・岐阜市立長良小学校

4年 杉山 綾子

指導者 高木 満夫



▲ていねいにまとめられています。

●内容

1. 鵜について

鵜には、川鵜と海鵜がいます。長良川の鵜は、海鵜を使います。

鵜は禁鳥で、とることを禁止されています。だから特別な許しをもらって、茨城県十王町のとり師の人にとってもらいます。(略)

2. 鮎について

5月11日にとれた初鮎は、天皇に献上します。天皇は、5月12日の夕食に、召し上がるしきりになっているそうです。

●船にのった感想 初めて船にのって、おじいさんの仕事のたいへんなことがよくわかりました。

まず、鵜をあやつります。松も、かがりの中に入なくてはなりません。鵜が取った魚をはかせる仕事もあります。かがりぼうを、右や左に動かす仕事もあります。熱い火の粉が飛んでくるし、とてもたいへんな仕事だとわかりました。

お父さんも、船がお客さんののっている船とぶつからないようにしなくてはいけないので、いそがしいです。仕事が終わって、体がいたいので見て

みると、かみがこげていたり、首やうでをやけどしたりしているそうです。おじいさんは、「シャツまであながあいている時があったよ」と言いました。

●評 おじいさんの話を聞くだけでなく、一緒に船にのって、体験しているところがこの作品をすばらしいものにした第一の原因だと思います。

最優秀作品と同様、日常、目で見、耳で聞いて、わかっているつमोरのことを、おじいさんの話を聞き体験して発展させたところが、小学生の自由研究らしくとてもすばらしいと思いました。

優秀賞受賞作品

はたらく人

東京都・文京区立窪町小学校

2年 荒川 武士

指導者 吉田 恭子



▲一日の流れを、写真を使って説明しています。

●動機 ぼくの家はパン屋です。だからぼくは、夏休みにおてつだいをしました。それで一日やった仕事を、まとめてみました。

●内容 しごとは、パンやおべんとうをならべたりすることからはじまります。あさからとてもいそがしいです。コーラをはこぶとき、とてもおもかったです。もうやりたくないと思いました。毎日、はたらく人たちは、たいへんだと思います。

おみせがしまるまでやろうと思ったけれど、9

時にねてしまいました。とっても、つかれました。一日の流れを、写真で説明しました。

①あさ7時15分 シャッターをあけているところ。コーラのシートをとっているところ。

②あさ7時20分 シャッターをあけたところ。

パン・おべんとうをならべているところ。

③あさ7時25分 たばこがどれだけうれているかみているところ。

④あさ7時30分 みせのそうじ。

ジュースのはんばいきにコーラを入れるところ。

⑤あさ9時30分 はんばいきの中のお金をかぞえているところ。

⑥おみせのたばこがすくなくなったから、せんばいこうしゃにかいにいった。

⑦おきやくさんにおつりをあげるところ。

「ありがとうございました。」

●評 荒川君自身が、楽しみながら学習しています。2年生らしい作品の中に、ユニークな着想があります。「おみせがしまるまでやろうと思ったけれど、9時にねてしまいました。」という部分などは、とても臨場感があふれていて、ほほえましく読みました。

優秀賞受賞作品

大谷石の研究

栃木県・宇都宮大学教育学部付属小学校

4年 渡辺 麻起

指導者 菊地 悦子



▲「大谷石の研究」の表紙

●動機 大谷の周りには、古い石の仏様やお寺があります。また石作りのたてものや、めずらしい石の屋根を見ることが出来ます。わたしは、この「大谷石」を中心に、町の歴史や、

「大谷石」の使い方について調べてみたいと思いました。

●内容 次の7点について研究しました。

1. 大谷石の歴史と石の取り方

2. 大谷石のたん生

3. 大谷石の特長

4. 大谷石の使いみち

5. 大谷石の売り先

6. 大谷石の新しい使い方

7. 大谷石をほったあとの利用



▲絵の展覧会は今年の夏、テレビでも報道されました。

●まとめ 毎日見ている大谷石でしたが、いろいろ調べていくうちに、ずいぶんむかしから使われていたことがわかりました。また、使いみちが、たくさんあることがわかりました。

今年の夏、大谷石をほったあとの空間を利用した、絵の展覧会が行われた時はとても広く、すずしいと思いました。

●評 地域の素材をもとに、いろいろな角度から確かめ、レポートの形でまとめているのは4年生としては、すばらしく立派です。

特に、研究のすじ道がしっかりしていること。レポートとしての形をふんで、まとめていることは、5年生以上のお手本にもなると思いました。

研究は、まず筋道をしっかり立てること。まとめる時には、読む人にわかりやすいように工夫することが大切です。

ふだん見なれている身近な大谷石を研究したことも、他の作品同様入賞したポイントです。

優良賞受賞作品

紙芝居「人類の祖先」

東京都・品川区立浜川小学校

6年 須藤 恵美

指導者 鈴木 義昭



この地球上に人類が生まれた、およそ1千万年前からの進化のようすを紙芝居の形式をとり入れてまとめた。

▲楽しい表紙の「人類の祖先」

難しかった絵が、思ったよりうまく書け、全体をきれいにまとめられたので、よかった。

ちらししらべ 50日かん

佐賀県・神埼町立神埼小学校

4年 志岐 敬子

指導者 志岐 麗子

7月1日～8月20日までの50日間、佐賀新聞と朝日新聞に入っている「ちらし」の種類と枚数を調べました。(8月8日は休みなのではずした。)

種類別ちらし調べ
日にち別のちらしの枚数
曜日別ちらしの枚数
一日平均のちらしの枚数

以上の表を作って、いろいろ

なことがわかりました。



▲各種バーゲンのちらし

長良川の研究

岐阜県・岐阜市立長良西小学校

5年 後藤 千重

指導者 道下 聡

長良川は、どの山から流れ出して、どこの市や町を流れるのかを、調べてみたくなりました。

次の項目について調べました。

- 1、長良川の流れている市や町
- 2、長良川の支流
- 3、長良川の上流、中流、下流の川の様子
- 4、上流、中流、下流のまわりの様子
- 5、長良川の三地点の河原の石の大きさ調べ
- 6、長良川の鵜飼について

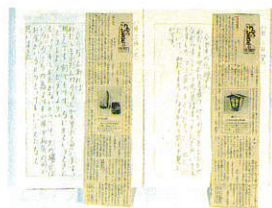
これからは長良川のことを研究するつもりです。

「ちょっとひとこと」(朝日新聞)の感想

東京都・日本女子大学付属豊明小学校

4年 桜井 麻子

指導者 桜井 利枝



朝日新聞の朝刊18面に載っている「ちょっとひとこと」という欄がともに好きで、毎日欠かさず読んでいます。

▲毎日、記事をスクラップしました。この作品は、夏休みを利用して、この欄を切り抜き、それに対する意見や感じたことを、自由に書いたものです。毎日毎日のつまかさねによって出来たことがよかったと思います。

みよし 三次風土記の丘と寺町廃寺跡をたずねて

広島県・広島市立原小学校

6年 瀬川 光恵

指導者 木村 照男



1学期に学習した古代人の生活を、県内の遺跡を自分の足でたずね、調べました。

風土記の丘にある古墳や古代住居を、写真に撮り、短い説明文をつけてまとめました。

本などで調べるより、実際

▲写真でまとめました。 に行って目で見ると、とても良くわかりました。

これからは、他の地域の古墳や昔のものを見て、調べながらまとめたいと思っています。

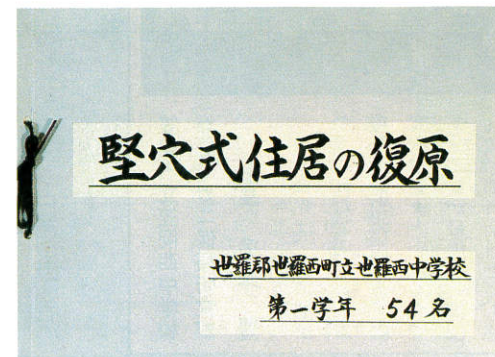
特別賞受賞作品

竪穴式住居の復原

広島県・世羅西町立世羅西中学校

1年 A・B組

指導者 松岡 昭、時永 益徳、井口 秀美、谷本 真理



▲1年生全員で行った竪穴式住居の復原

●動機

2つの中学が統合されたのを記念して、3年計画で古代人の生活を復原・体験しようということになった。まず初年度の今年は、竪穴式住居の復原と、土器作りを行うことになった。

●感想(作文一部引用)

「初めての住居造り」I A 上原 早苗
私は、最初のころは、本当にできるかどうか、とても不安でした。特に私たちの調査が不正確だった時は、もう、不安でいっぱいでした。

しかし、だんだん、だんだん、工程が進んでいくうちに、しっかりした自信が、少しずつ増してきました。それだけに、どうとう住居が完成した時の喜びは、どうにも表現しようのないものでした。

私たち自身の手でやったぞ、という自信とともに、忘れてはならないのは、どんな人間でも、1から10まで、すべてを一人ではやれないということです。だから、他人への感謝と、協力ということを、しっかり胸にもっておきたいと思います。

●竪穴式住居ができるまで



①旧世羅西中学校の竪穴式住居を解体調査



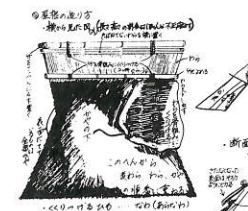
②土器作り



③敷地の整地作業



④骨組みを作る



⑤屋根の図面



⑥屋根を地元の人に手伝ってもらってふく



⑦土器の野焼き



⑧ついに完成

❖事務局から一言 この「竪穴式住居の復原」は内容のレベルも高く、すばらしい作品です。しかし、先生と生徒の合同作品であり、自由研究よりもっとスケールの大きいものなので、他の作品と同一条件で審査するのは妥当ではないということになりました。よって審査員全員一致で、特別賞としました。